



小牧幼稚園 園だより 第365号 2021年3月
教育目標「神を敬い 人を愛し 平和を作り出す子どもを」
年主題「こころが満たされる」
年聖句「喜びと平和とであなたがたを満たす」ローマ 15 : 13

この園だよりでお別れとなる、みどり組のご家庭の皆様、長い間ありがとうございました。

今年1年は、コロナで始まり、コロナで終わろうとしていますが、小牧幼稚園としては、例年通りの保育を続けようと、毎日先生たちと話をしながら過ごしました。勿論、例年通りというわけには行きませんでした。逆に、ひとつひとつの課題（行事等）を今年仕様に考えつつ、コロナ過を理由とせず、新しく捉えなおして行こうとしてきました。みどり組のご家庭においては、2年分と今年を比べて行事等、物足りない機会もあったかもしれませんが、真っ新からの1年だったと考えて頂ければ幸いです。プールの組み立てはお父さん方だけのお手伝いを頂き、お母さんと子どもは留守番、普段と逆で付き添いのお父さんが、当日は主役でした。お泊り幼稚園も中止を考えましたが、なぜお泊り幼稚園を行うのか、から考え直す機会となり、コロナ過の中でどんな形で行えるかを考えました。運動会しかり、クリスマス会しかり、造形まつりも午前午後に分け、小学生には遠慮いただき、「お兄ちゃんが怒っている」と卒園生には不満があったようですが、当日は例年よりゆっくり楽しんで頂けたと様子でした。最後は卒園式です。昨年のは、色々な方々から、「小牧幼稚園は普通にやっているのですね、園長先生らしい」と言われ、「普通ではないです、悩みながら、考えながらやっています」と反論していましたが、今年はどうなるのか、悩み中です。と言っても私より、副園長・主任・担任の先生方がもっと考え、悩んでいることでしょう。こんな風にして、もうすぐ1年も終わろうとしています。と言う私も、やり足りないと思うことも多々あります。例年、4・5月の間に、新しい子どもの顔・姿・特性を捉え、親子ピクニックを終えた、6・7月には親子の関係を理解していくのが例年ですが、今年、マスクを通してのコミュニケーションで、来園されるお母さんお父さんのお顔を覚えることさえなかなかできず、今でも苦労しています。小牧幼稚園の有り様の一つは、直に家庭と会話し理解しあう事を大切にしていることです。今、国は、認定こども園への変更を奨励しています。簡単に言えば、幼稚園の保育園化、もしくは私立幼稚園も、市の管轄に置いて、子どもの入園先は調整し、待機児童をゼロにしたい方針です。勿論、そのため園への補助も増えますので、県内の幼稚園も多くが、変更しつつあるようです。入園希望者は、少しの枠を除き、市に申し込みをし、市から、各園に希望者を割り振る、園は「応諾義務」という制度があり、定員に満たしていなければある程度は受け入れる必要があるようです。そのため支援が必要な子ども、市外から入園したい子ども、どうしても小牧幼稚園に入園したい子など、希望の園に入園できないかもしれません。卒園生の子、上の兄弟姉妹が在園していても、他の園を紹介されることもあり得ます。小牧幼稚園は、90余年の歴史があり、多くの卒園生に守られています。3代目にわたり小牧幼稚園に通っている家庭もあります。子どもが少なくなくて苦労した時も、世間が就職希望の先生が少ない時代も卒園生が戻ってきて

くれ、子どもの募集や人材にそんなに苦労しませんでした。そんな園の有り様が、コロナによって薄れていく、そんなことを危惧する1年でした。今年度入園した家庭も、あと2年あります。この1年を必ずや取り戻せると願い、子どもと家庭との繋がりを大切にし、卒園していく子どもたちと、また小牧幼稚園での再会を願っています。
(家庭学級 閉講式のお話をまとめました。)

＊愛知県経常費補助金のお知らせ

愛知県は極めて厳しい財政状況の中で、県下の幼稚園に対して多額の補助金が交付され私学助成の充実に力を注いでいます。この補助金は、幼稚園の人件費・消耗品・教育に必要な経常的経費に対して補助されるもので、次の3点が目的になります。①教育条件の維持向上、②父母負担の軽減、③経営の安定化です。小牧幼稚園は、令和2年度34,820,000円(園児一人当たり213,619円)の補助を受け前記3項目に対して効果が見られ来年度も安定した運営が見込まれます。

＊今年度の父母の会会計報告は4月号で行います。

☆年度末を迎えつつあります。この季節お別れと出会のシーズンであります。幼稚園でもみどり組の子は、卒園の歌と、小学校へ行くことを楽しむ歌、「別れ」と「出会い」を歌います。卒園・卒業の季節と同じ頃に3月11日が毎年やってきます。先日、朝日新聞の天声人語で「群青」という歌が紹介されていました。数年前から卒業の季節に各地で歌われているそうです。津波と原発事故で散り散りになった福島県南相馬市の小高中学校で生まれた歌で、生徒たちの何気ない会話から歌詞を紡いだそうです。<「またね」と手を振るけど明日も会えるかな 遠ざかる君の笑顔今でも忘れない> 被災から10年たち何度も東北に行きました。確かに復興が進んでいる地域もあります。残念ながら、まだ帰れない地域もあります。もう帰らない、帰れない、と悲しむ姿が、テレビに映し出されます。傷ついたままの被災後の人々の心、復興がなされないまま、日本は乗り越えようとしているのでしょうか。<鮮やかな記憶が、目を閉じれば、群青に染まる>海面に目を凝らせば、沖は群青色そのもの。群青色の海をいつの日か穏やかな心で眺められるよう。<また会おう。群青の町で>と。 別れだけにならないよう、また会えることの、喜びを大事にしたいと思います。

「また会う日まで また会う日まで 神の恵み たえせず共にあれ」

卒園式最後に歌う、賛美歌 465 番より

☆3月19日をもって、バスの運転を主にして頂いた、佐藤さんが転職希望のため退職されます。後任は、現在交代で運転をしている、松本 茜さんです。松本さんも卒園生のお母さんです。よろしく願いいたします。

☆今年の新中学生のための同窓会も例年のように行えません。6年まえの卒園時に描いた絵を受け取りに来ていただくよう案内しています。今年卒園生、6年後には幼稚園給食を食べに帰って来られるよう、願っています